

1977
作品ナンバー0150

記録

16ミリ

カラー／32分

英・インドネシア・日
本語版

■企画

(財)家族計画国際協
力財団

スタッフ

■製作・脚本

村山英治

■演出

村山正実

■撮影

小林一夫

北川英雄

■音楽

廣瀬量平

■編集

沼崎梅子

■解説

久米 明

Among The Village People

A Family Planning Experience in Central Java, Indonesia

〔インドネシアの母たち〕

文部省選定

日本人は、もっと発展途上国の民衆を知らなければといわれながら、これまで民衆の姿やその心（願い）を伝える映画は少なかった。この映画は、インドネシアの農村を訪れ、そこに住む人々の生活や、ものの考え方を内側から描いている。伝統文化がまだ日常生活に生きている社会、そこにある静かな時の流れや心のやすらぎは、私たち日本人に忘れていたものを思い出させる。これから長く続く、発展途上国の民衆のための教育映画、のちにドキュメンタリー・シリーズと呼ばれるようになった南の国々の映画の旅の第1作である。



インドネシアは5つの大きな島と3千数百の小さな島からなる多島国家で総人口は約1億3500万人、豊かな伝統文化と美しい自然に恵まれた国である。そのジャワ島中部の農村の朝市で、私たちは1人の母に出会った。40歳ですでに9人の子持ちだという。米作のほか、彼女は伝統のパティックと呼ばれるろうけつ染めの内職をしていた。子供たちも、1人残らず朝から水汲み、家畜の世話、子守りと、母を助けてよく働く。こうした忙しい農家の母たちの悩みは、休む間もなく子供ができてしまうことだった。しかし、貧しい農家にとって子供たちは手助けになるし、老後の頼りもわが子だけなので、家族計画には抵抗がある。

ある日、この村の診療所に家族計画を奨める保健婦が配属されてきた。村人の生活を支配しているのは、イスラム教とゴトンロヨンと呼ばれる村の伝統的な助け合いの風習で、村長は保健婦を助けてこの制度に村人たちの健康管理をうまく組み入れようとした。こうした運動の広がりの中で村の母親たちも、子供や自分たちの健康に関心をもつようになってきた。月に1度の避妊具の配給を受ける日には、料理や洋裁などの講習も行なわれ、母親たちの楽しい集まりの日になった。

